

熊本大学大学院法曹養成研究科  
平成26年度第4期募集 法律科目試験問題

## 刑事訴訟法

平成26年2月23日(日) 10:55~11:40

### 解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚、下書き用紙は1枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答は横書きにして下さい。解答用紙の追加・交換はしません。
5. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
6. 問題の内容に関する質問には応じません。
7. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
8. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

【問題】以下の事例を読んで、問いに答えなさい。（配点：40点）

平成24年10月19日、Xに対する殺人罪の捜査が開始された。しかし、逮捕・勾留するだけの嫌疑が存在せず、殺人罪で逮捕・勾留することができなかった。そこで、この殺人罪とは無関係な窃盗の罪でXを逮捕・勾留した上で、もっぱらこの殺人罪についての取調べを行った。勾留の最終日にいたって、Xは殺人罪について自白した。そこで、窃盗罪についての勾留期間満了後、あらためて殺人罪でXを逮捕・勾留した。

この一連の手続の適法性について論じなさい。

以上